

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：82606
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：20K16566
研究課題名（和文）AYA世代がん患者の早期症状緩和と心理社会的支援に関するスクリーニング法の開発

研究課題名（英文）Development of screening methodology for early symptom relief and psychosocial support of AYA generation cancer patients

研究代表者
平山 貴敏（Hirayama, Takatoshi）
国立研究開発法人国立がん研究センター・中央病院・医員

研究者番号：80794750
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：AYA世代のがん患者のアンメットニーズに対応するためには早期に個別のニーズを把握し、多職種で支援を行う必要がある。しかし、国内のAYA世代のがん患者に対する支援体制は十分に確立されていない。AYA世代のがん患者を対象にスクリーニングを行うことができれば、早期から症状緩和と心理社会的支援を行うことが可能となるが、国内で妥当性の検証されたスクリーニングツールは存在しない。そこで、本研究では、AYA世代がん患者の早期症状緩和と心理社会的支援に役立つスクリーニングツールを開発し、その実施可能性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

AYA世代のがん患者には様々なアンメットニーズが存在しており、このことが適切な医療や支援が提供できないことに大きく関連していることが示唆されている。AYA世代のがん患者のアンメットニーズに対応するためには早期に個別のニーズを把握し、多職種で対応する必要がある。本研究で開発したAYA世代のがん患者のニーズを把握するためのスクリーニングツールは、早期からの症状緩和と心理社会的支援に役立つと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In order to address the unmet needs of AYA generation cancer patients, it is necessary to identify their individual needs at an early stage and provide support in a multidisciplinary manner. However, the support system for AYA cancer patients in Japan is not well established; screening of AYA cancer patients would enable early symptom relief and psychosocial support, but there is no validated screening tool in Japan. A screening tool for for early symptom relief and psychosocial support of AYA generation Japanese patients with cancer was developed and its feasibility was demonstrated.

研究分野：AYA世代がん患者の心理社会的支援

キーワード：スクリーニング AYA 思春期・若年成人 がん患者 早期からの緩和ケア 心理社会的支援 アンメットニーズ 心ころサポート

1. 研究開始当初の背景

思春期・若年成人 (Adolescent and Young Adult : AYA) 世代 (15 ~ 39 歳) は、がんの罹患および死亡率が最も低い世代であり (文献 1、2) がん対策においてこれまで取り組まれていない対象であった。しかし、この世代のがんは多様ながん種のため (文献 1) 多くの診療科が関わるものの、希少なため治療法が未確立であり、AYA 世代が抱える特有の課題への対応が不十分など、適切な医療や支援が提供できていない可能性があり「第 3 期がん対策推進基本計画」において初めて AYA 世代のがん対策が明記された。

これまでに AYA 世代のがん患者には様々なアンメットニーズが存在することが知られており、このことが適切な医療や支援が提供できないことに大きく関連していることが示唆されている。2007 ~ 2009 年に米国で行われたがん診断後 6 ~ 14 カ月の 15 ~ 39 歳のがん患者を対象とした AYA HOPE Study (n=484) では、約 3 分の 2 の患者が情報に関するアンメットニーズを、約 3 分の 1 の患者が支援に関するアンメットニーズを抱えていた。支援に関するアンメットニーズは、経済面、メンタルヘルス、サポートグループに関することが多く報告された。情報に関するアンメットニーズは健康関連 QOL に影響し (文献 3)、支援に関するアンメットニーズは、健康関連 QOL に加え、疲労、身体・感情・社会的な機能にも関連していた (文献 4)。

一方、国内では 2016 年に「総合的な思春期・若年成人 (AYA) 世代のがん対策の在り方に対する研究」班が「現在治療中の AYA 世代患者および治療を終了して 1 年以上経過したがん経験者」を対象に実施したアンケート調査では、がん患者 (n= 207) の悩みの上位項目は、上から順に「今後の自分の将来のこと」「仕事のこと」「経済的なこと」「診断・治療のこと」「不妊治療や生殖機能に関する問題」「家族の将来のこと」「後遺症・合併症のこと」「生き方・死に方」「容姿のこと」「がんの遺伝の可能性について」が挙げられた (文献 5)。しかし、これらのアンメットニーズを早期に拾い上げる方法がないのが現状である。

このような学術的背景から、AYA 世代のがん患者のアンメットニーズに対応するためには早期に個別のニーズを把握し、多職種で対応する必要があると考えられた。そこで、AYA 世代のがん患者のニーズを把握するためのスクリーニング法を開発することが早期からの症状緩和と心理社会的支援に有用なのではないか、という「問い」に至った。

2. 研究の目的

本研究は、国内の AYA 世代のがん患者を対象としたスクリーニング法を開発することが目的である。国内では AYA 世代のがん患者を対象とした支援体制は確立されていないため、スクリーニング法を開発することでスクリーニング後のアンメットニーズのトリアージ体制を構築し、国内の AYA 世代がん患者が抱える特有の課題への早期からの対応や症状緩和を含む適切な医療や心理社会的支援の提供に役立てることが可能となる。

3. 研究の方法

(1) 国内の AYA 世代がん患者を対象とした半構造化面接調査

【対象】 組織学的に悪性新生物と診断されている 15 歳 ~ 39 歳のがん患者 40 名。より網羅的に内容を抽出するために、年齢が 15-19 歳、20-24 歳、25-29 歳、30-34 歳、35-39 歳のそれぞれの年齢について性別が均等になるようリクルートを行う。

【研究のデザイン】 半構造化面接調査

【調査方法】

NCCN®の「Distress Thermometer and Problem List」に関して翻訳および逆翻訳を行い、日本語版スクリーニングツールを作成する。なお、作成したスクリーニングツールの内容についてNCCN®の承認を得る。

インタビューガイド（作成済み）に基づいて面接を行い、各質問項目に対する意味の確認、表現が理解可能かどうか、追記すべき項目について尋ねる。面接内容はボイスレコーダーに録音し、録音データをテキストデータ化する。

【解析方法】

テキストデータ化された発言内容を意味のある文ごとに区切る。そして、それぞれの文が「理解しづらい項目」「追記すべき項目」に該当するかを川喜田(1986)による KJ 法を用いて抽出する。また、その数（割合）を算出する。

上記で抽出した各項目に関して、AYA 世代の患者の診療に携わる専門家および AYA 世代のがん経験者でレビューを行い、項目の修正と追加項目について検討を行い、全員一致をもって最終的な項目案の作成を行う。

（2）開発したスクリーニングツールの実施可能性試験

【対象】 3 か月間に国立がん研究センター中央病院で入院治療を行った AYA 世代のがん患者

【研究のデザイン】 前向き観察研究

【調査方法】入院時に AYA 世代のがん患者に開発したスクリーニングツールを用いてスクリーニングを行い、ニーズに応じて多職種が介入する。該当患者について、診療録より研究登録番号に紐づけされた解析対象症例のデータを抽出して、解析用データベースを別途作成してデータの解析を実施する。

（観察項目）カルテ番号、生年月日、性別、研究登録番号、疾患名、病期、治療歴、治療内容、婚姻状況、子どもの有無、居住形態、就労 / 就学状況、苦痛のスクリーニング（Distress Thermometer: DT）の得点とチェック項目、それに関連した診療、ケア、多職種による支援状況、スクリーニングの実施日等

【解析方法】

上記の観察項目について解析を行う。具体的には、患者背景に関しては、記述統計を用いて解析を行う。また、入院病棟ごとのスクリーニングシートの実施率（スクリーニングシート実施数 / 解析期間中の全 AYA 世代がん患者の入院数）および入院当日の実施率（入院当日のスクリーニングシート実施数 / 解析期間中の全 AYA 世代がん患者の入院数）を算出する。多職種の介入に関しては、各専門家の介入割合（実際の介入数 / 初期フローで専門家の介入を推奨する項目にチェックのある患者数）を算出する。DT の得点に関しては、入院時と退院時について対応のある t 検定を用いて前後比較する。

4 . 研究成果

（1）国内の AYA 世代がん患者を対象とした半構造化面接調査

患者背景

40 名 of AYA 世代のがん患者が半構造化面接に参加し、男女ともに 20 名ずつ参加した。年齢は平均 26.7 歳（15 ~ 39 歳）であった。参加者のがん種は、骨軟部腫瘍、リンパ腫・血液疾患、肺がん、乳がん、悪性黒色腫、頭頸部腫瘍、婦人科がん、精巣がん、腎がんであった。ステージは 期と 期の割合が多かった。治療状況は、根治治療を目指したものが多く、化学療

法 (n=28、70%)、手術 (n=19、47.5%)、放射線療法 (n=1、2.5%) の順に多かった。就労/就学中のものが 30 名 (75%) であった。配偶者・パートナーをもつものが 13 名 (32.5%)、子どもをもつものが 9 名 (22.5%) であった。同居中のものは 36 名 (90%) であった。

質的内容分析の結果

研究参加者は、39 項目のうち 24 項目 (62%) について理解しやすいと回答した。「容姿」について 1 名 (2.5%)、「動き回る事」について 4 名 (10%)、「薬物の使用」について 2 名 (5%)、「保険/生計」について 6 名 (15%)、「治療の決断」について 9 名 (22.5%) が理解しにくいと回答した。それぞれの項目に関して、日常的に AYA 患者の診療に携わっている専門家および AYA 世代のがん経験者でレビューを行った。その結果、理解しにくいと回答した 5 項目についてそれぞれ「容姿 (見た目、外見)」「日々の活動」「処方薬以外の薬の使用」「お金に関する事 (治療費、生活費、保険など)」「治療の選択」に変更することで全員一致した。

また、追加すべき項目については、「病期・治療の情報」「相談相手/相談環境」「大切な予定/行事」「医療者との関わり」「親との関わり」「その他の家族との関わり」「家族以外との関わり」「入院生活」「家族の精神面」「不安」「イライラ」の 11 項目が全員一致で追加となった。

上記の結果から、国内の AYA 世代のがん患者を対象としたスクリーニングツールを開発し、NCCN®に承認を得た (図 1)。

(2) 開発したスクリーニングツールの実施可能性試験

実施率

対象期間内に 251 名の患者のうち 232 名 (92.4%) にスクリーニングを実施し、230 名 (91.6%) から回答を得た。初回実施のみのデータでは、140 名の患者のうち 121 名 (86.4%) にスクリーニングを実施し、119 名 (85%) から回答を得た。回答しなかった 2 名は、それぞれせん妄の患者と知的能力が低下している患者であった。実施率は全体、初回実施のみのデータともに先行研究から設定した 65%以上であった。

専門家の介入割合

スクリーニングシートのチェック項目とそれに応じた専門家の介入を検討した。回答した患者のうち、207 名 (90%) がなんらかの項目にチェックし、そのうち 45 名 (21.7%) が専門家 (担当医を除く) につながった。

スクリーニング体制が導入される前の 2018 年 1 月 16 日から 4 月 15 日までの 3 カ月間における専門家 (担当医を除く) の介入割合は 7.5% (201 名中 15 名) であった。一方、本研究での専門家 (担当医を除く) の介入割合は 13.1% (251 名中 33 名) であった。スクリーニング体制が導入される前後では、有意差は認めなかった ($p=0.06$)。

妥当性と関連要因

スクリーニングシートの妥当性を検討するため関連要因を検討した。子どもがいない患者は、「子どもとの関わり」にチェックがなかった。また、配偶者やパートナーがいない患者は「パートナーとの関わり」にチェックがなかった。就労/就学していない患者の中で、2 名が「仕事/学校」にチェックをつけた。その 2 名は、もともと就労していたが病気を機に退職せざるを得なかった。独居の患者は、家事にチェックがなかった。

信頼性

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Hirayama Takatoshi, Fujimori Maiko, Yanai Yuko, Ishiki Hiroto, Shindo Akie, Tanaka Moeko, Kobayashi Tomomi, Kojima Rebekah, Satomi Eriko	4. 巻 -
2. 論文標題 Development and evaluation of the feasibility, validity, and reliability of a screening tool for determining distress and supportive care needs of adolescents and young adults with cancer in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Palliative and Supportive Care	6. 最初と最後の頁 1~11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/s147895152200092x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Hirayama Takatoshi, Fujimori Maiko, Ito Yoshinori, Ishida Yuji, Tsumura Akemi, Ozawa Miwa, Maeda Naoko, Yamamoto Kazuhito, Takita Sakie, Mori Makiko, Tanaka Kyoko, Horibe Keizo, Akechi Tatsuo	4. 巻 31
2. 論文標題 Feasibility and preliminary effectiveness of a psychosocial support program for adolescent and young adult cancer patients in clinical practice: a retrospective observational study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00520-023-07596-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Hirayama Takatoshi, Ikezawa Satoru, Okubo Ryo, Mizuta Tomoko, Iwata Shintaro, Suzuki Tatsuya	4. 巻 31
2. 論文標題 Mental health care use and related factors in adolescents and young adults with cancer	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00520-023-07708-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 平山 貴敏	4. 巻 -
2. 論文標題 ピアサポートとSNS	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 事例に学ぶ AYA世代のがん サポートケア・緩和ケア	6. 最初と最後の頁 232~234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平山 貴敏	4. 巻 -
2. 論文標題 AYA 世代の患者の特徴と, 身体症状緩和のために意識したいコミュニケーション	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 がん患者の呼吸困難・痛み・精神症状を診るロジック	6. 最初と最後の頁 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirayama Takatoshi, Fujimori Maiko, Ito Yoshinori, Ishida Yuji, Tsumura Akemi, Ozawa Miwa, Maeda Naoko, Yamamoto Kazuhito, Takita Sakie, Mori Makiko, Tanaka Kyoko, Horibe Keizo, Akechi Tatsuo	4. 巻 31
2. 論文標題 Feasibility and preliminary effectiveness of a psychosocial support program for adolescent and young adult cancer patients in clinical practice: a retrospective observational study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00520-023-07596-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirotoshi Ishiki, Takatoshi Hirayama, Saki Horiguchi, Ikumi Iida, Tamae Kurimoto, Mihoko Asanabe, Miho Nakajima, Akiko Sugisawa, Ayako Mori, Yuki Kojima, Ryoko Udagawa, Hayato Tsuchiya, Mami Oki, Mariko Shimizu, Yuko Yanai, Shoko Touma, Keiko Nozawa, Rebekah Kojima, Naoko Inamura, Asami Maehara, Tatsuya Suzuki, Eriko Satomi	4. 巻 5
2. 論文標題 A Support System for Adolescent and Young Adult Patients with Cancer at a Comprehensive Cancer Center	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JMA Journal	6. 最初と最後の頁 44 ~ 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31662/jmaj.2021-0106	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平山 貴敏, 柳井 優子, 松岡 弘道	4. 巻 88(7)
2. 論文標題 特集 婦人科がん機能温存治療のすべて 4. 機能温存治療と精神腫瘍学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 産科と婦人科	6. 最初と最後の頁 791-795
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirayama Takatoshi, Ishiki Hiroto, Yanai Yuko, Horiguchi Saki, Sugisawa Akiko, Sato Jun, Kojima Ryugo, Sato Kaori, Mizuta Tomoko, Kojima Rebekah, Udagawa Ryoko, Kojima Yuki, Satomi Eriko	4. 巻 13
2. 論文標題 Feasibility of an Electronic Patient-Reported Outcome Tool for Screening Distress and Supportive Care Needs of Adolescents and Young Adults with Cancer	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Adolescent and Young Adult Oncology	6. 最初と最後の頁 138 ~ 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/jayao.2023.0014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平山 貴敏	4. 巻 4
2. 論文標題 国立研究開発法人?国立がん研究センター中央病院	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 AYAがんの医療と支援	6. 最初と最後の頁 26 ~ 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34598/ayaoncology.4.1_26	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計23件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 石川 彩夏, 石木 寛人, 荒川 さやか, 天野 晃滋, 里見 絵理子, 平山 貴敏, 松元 和子, 池長 奈美, 石崎 佑子, 後藤 友季恵, 川口 雄生, 宮北 康二, 成田 善孝
2. 発表標題 がん治療中のAYA世代がん患者が修学旅行へ行きたい夢を叶えた緩和ケアチームの多職種支援
3. 学会等名 第4回日本緩和医療学会 関東・甲信越支部学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 緒方 杏香, 平山 貴敏, 柳井 優子, 茅野 綾子, 小川 祐子, 松元 和子, 増子 侑希, 松岡 弘道
2. 発表標題 病状否認が強い患者・家族を治療する主科に対する心理師の介入
3. 学会等名 第35回日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平山 貴敏
2. 発表標題 AYA世代肉腫患者さんに対する多職種で関わるトータルサポート
3. 学会等名 第6回日本サルコーマ治療研究会学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 荒川 さやか, 石木 寛人, 平山 貴敏, 小島 勇貴, 岩田 慎太郎, 中島 美穂, 鈴木 達也, 里見 絵理子
2. 発表標題 AYA世代がん患者を支援する多職種サポートチームの構築と課題
3. 学会等名 6NCリトリートポスターセッション
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平山 貴敏
2. 発表標題 AYA世代のサイコオンコロジー
3. 学会等名 第34回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平山 貴敏, 柳井 優子, 石木 寛人, 新藤 明絵, 田中 萌子, 小林 智美, 森 文子, 鈴木 達也, 清水 研, 里見 絵理子
2. 発表標題 国内のAYA世代がん患者を対象としたスクリーニングシートの開発
3. 学会等名 第2回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中 萌子, 柳井 優子, 平山 貴敏, 石木 寛人, 奥屋 俊宏, 小島 勇貴, 藤間 勝子, 大木 麻美, 宮田 佳代子, 森 文子, 鈴木 達也, 清水 研, 里見 絵理子
2. 発表標題 AYA世代のがん患者に対する多職種支援体制の構築(3) AYA世代がん患者に対するスクリーニングシートを用いた支援が多職種介入につながった一例
3. 学会等名 緩和・支持・心のケア合同学会大会 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柳井 優子, 平山 貴敏, 田中 萌子, 石木 寛人, 森 文子, 鈴木 達也, 清水 研, 里見 絵理子
2. 発表標題 AYA世代のがん患者に対する多職種支援の取り組み(2) AYA世代の年齢による悩みの種類の違いの検討
3. 学会等名 緩和・支持・心のケア合同学会大会 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平山 貴敏, 藤森 麻衣子, 明智 龍男, 伊藤 嘉規, 柳井 優子, 石木 寛人, 森 文子, 鈴木 達也, 清水 研, 里見 絵理子, 堀部 敬三
2. 発表標題 AYA世代のがん患者に対する多職種支援の取り組み(1) 支援ニーズに関するスクリーニングシートを用いた支援の実際
3. 学会等名 緩和・支持・心のケア合同学会大会 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢島 緑, 平山 貴敏, 清水 研
2. 発表標題 精神腫瘍科介入によりAYA世代患者の抱える不安に病棟スタッフが気づき退院支援が円滑にできた症例
3. 学会等名 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平山 貴敏, 柳井 優子, 石木 寛人, 新藤 明絵, 田中 萌子, 小林 智美, 小嶋 リベカ, 森 文子, 鈴木達也, 里見 絵理子
2. 発表標題 Development of a screening tool to determine support needs for Japanese adolescents and young adults with cancer
3. 学会等名 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平山貴敏, 小嶋リベカ, 岸田徹, 宇田川涼子, 柳井優子, 小川祐子, 田中萌子, 増子侑希, 石木寛人, 鈴木達也, 里見絵理子
2. 発表標題 オンラインコミュニケーションツールを活用したAYA世代がんサバイバーのピアサポート「オンラインAYAひろば」の取り組み
3. 学会等名 第3回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小嶋リベカ, 石木寛人, 柳井優子, 小川祐子, 前原朝美, 池長奈美, 佐々木千幸, 稲村直子, 吉本有希, 平山貴敏, 里見絵理子
2. 発表標題 未成年の子どもがいる若年成人がん患者への多職種チームによる支援活動
3. 学会等名 第3回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石木寛人, 平山貴敏, 堀口沙希, 森文子, 小島勇貴, 宇田川涼子, 小嶋リベカ, 前原朝美, 柳井優子, 稲村直子, 鈴木達也, 里見絵理子
2. 発表標題 AYA世代がん患者を支援する多職種サポートチームの構築
3. 学会等名 第6回日本がんサポーターティブケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前原朝美, 石木寛人, 小嶋リベカ, 平山貴敏, 柳井優子, 小川祐子, 稲村直子, 吉本有希, 佐々木千幸, 池長奈美, 里見絵理子
2. 発表標題 未成年の子どもがいるがん患者・家族を対象とした多職種支援チーム(PC-Panda)の活動報告
3. 学会等名 第26回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平山 貴敏
2. 発表標題 AYA世代がん患者のこころのサポートで知っておきたいこと
3. 学会等名 第36回日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平山 貴敏
2. 発表標題 AYA世代がん患者のこころのサポート～臨床からリサーチへ～
3. 学会等名 第36回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平山 貴敏
2. 発表標題 AYA世代がん患者の自己決定におけるこころのサポート
3. 学会等名 第73回General Hospital Psychiatry研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 村松 脩大, 岩田 慎太郎, 石木 寛人, 森 文子, 里見 絵理子, 平山 貴敏, 川井 章
2. 発表標題 AYA世代骨軟部腫瘍患者における治療中の心理的苦痛
3. 学会等名 第6回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 池上 貴子, 石木 寛人, 松原 奈穂, 石川 彩夏, 川崎 成章, 荒川 さやか, 小島 勇貴, 平山 貴敏, 宇田川 涼子, 稲村 直子, 里見 絵理子
2. 発表標題 AYA世代がん患者ががん診断時に抱えるつらさや問題点に関する後方視的検討
3. 学会等名 第29回日本緩和医療学会学術大会・第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 松原 奈穂, 石木 寛人, 池上 貴子, 石川 彩夏, 川崎 成章, 荒川 さやか, 小島 勇貴, 平山 貴敏, 宇田川 涼子, 稲村 直子, 里見 絵理子
2. 発表標題 AYA世代スクリーニングシートで判明したつらさの寒暖計スコアと生活での問題点の関連性
3. 学会等名 第29回日本緩和医療学会学術大会・第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 平山 貴敏
2. 発表標題 AYA世代がん患者のこころのサポート～臨床からリサーチへ～
3. 学会等名 第120回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Shudai Muramatsu, Shintaro Iwata, Hiroto Ishiki, Ayako Mori, Eriko Satomi, Takatoshi Hirayama, Akira Kawai
2. 発表標題 Psychological distress during treatment in AYA patients with bone and soft tissue tumors
3. 学会等名 36th Annual Meeting of the European Musculo-Skeletal Oncology Society(EMSOS 2024) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大武 陽一, 山口 健也, 平山 貴敏	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 176
3. 書名 患者・家族とのコミュニケーション	

1. 著者名 平山 貴敏, 五十嵐 江美, 佐々木 千幸, 田上 恵太	4. 発行年 2024年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 216
3. 書名 今夜からもう困らない! 夜の症状緩和	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>AYAサポートチーム活動の手引き https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/info/team/060/ayasupprotbook.pdf AYA世代のがんについて https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/AYA/index.html 困りごとを見落とさないためのツール https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/AYA/030/index.html AYAがんサポート・動画 https://www.youtube.com/watch?v=5QPMgRrnqrc</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------